

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2291100184		
法人名	有限会社 在宅支援センターふれあい		
事業所名	グループホームふれあい島郷	ユニット名	2Fフロア
所在地	静岡県沼津市下香貫清水2135		
自己評価作成日	平成30年3月2日	評価結果市町村受理日	平成30年4月16日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/22/index.php?action=kouhyou_detail_2017_022_kani=true&igvosyoCd=2291100184-00&PrefCd=22&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	セリオコーポレーション有限会社 福祉第三者評価 調査事業部		
所在地	静岡県静岡市清水区迎山町4-1		
訪問調査日	平成30年3月16日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

介護度が低く自身の意志を表現できる方が多く、ご意見を聞きイベントや行きたいことややりたいことを決定している点、外出のバリエーションが多く、足湯や御殿場のえびせんべいの里がご入居者様から人気で頻繁に訪れている。夜間の外出も行っており『ホテル見学』は6月の定番となっている。イベント食に力を入れておりおせち料理、節句、クリスマス等季節行事や、ご入居者様との関わりの中で発生する突然のイベントも人気。ご入居者様と職員が信頼関係を築きなんでもお互いに言える環境になっている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

明るく優しい職員が多く、チームワークも良く家庭的雰囲気介護に取り組んでいる。利用者は職員との信頼関係の中、仲良く、時には利用者間の会話の時間を持ちながら穏やかに過ごしている。管理者は、リーダーシップとビジョンを持って取り組みつつ、部下であるリーダーに任せられることは任せて事業所の運営に当たっている。事業所の祭であるサマーフェスタには地域住民等200名近くが参加し交流している。事業所の駐車場を自治会の祭の会場として提供したり、地元の納涼祭への参加を恒例とする等、地域との交流を深めている。阿波踊りや太鼓演奏・書道教授等のボランティアの受入れにも積極的である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー) です。〕

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	会社の理念を毎朝の朝礼時に斉唱している。全体会議などで職員全体で目標や理念について話し合っている。	事業所の年度目標は「PDCAができるチーム」で、会社の理念とともに毎朝の朝礼時に唱和している。職員全員が5つの係のいずれかに属し、各係主導でPDCAに沿って自主的に活動し業務の改善を行っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の自治体などと交流を持ちボランティアやイベントを開催している。周辺散策・店舗への買い物へ出掛けている。夏にサマーフェスタと題し毎年200人近くの方が施設を訪れている。	事業所の祭、サマーフェスタには地域住民等200名近くの参加があり交流している。自治会の祭の会場として駐車場の提供や地元の納涼祭への参加を恒例としている。阿波踊りや太鼓演奏、書道教授等のボランティアを受入れている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	事業所主催のお祭りを開き、模擬店・大道芸などを楽しみながら地域の方と交流しました。その中で介護相談ブースを設けケアマネが対応。地元自治会のお手伝いをさせていただき、地元の納涼祭にも参加させていただきました。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	前回と同様にご意見を頂くために、ご入居者様家族様、地域包括、地元の自治会長様をお誘いし会議を行っている。事業所の運営状態や事故の報告をしたりご入居者様の日々のご様子を紹介している。	自治会長や地域包括支援センター・民生委員2名と市介護相談員・2家族、そして年1回市の職員も参加し、前年末に年6回開催している。現況やヒヤリ・ハット報告のほか、動画で事業所の様子を見せることもある。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	大きな事故では行政事故報告を行い状況の説明をしている。沼津市の開催する指導に参加し最新の介護情報を得ている。運営推進会議の報告を行なっている。	市介護支援課に指導を受け、運営推進会議報告や事故報告をしている。市職員や地域包括支援センター、地域グループホーム参加の「南部地域グループホーム連絡協議会」に参加し、情報交換や相談をしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束はしていません。ご入居時にご家族様へも説明している。フロア出入り口は施錠しています。ご家族様へは安全配慮の為您とご理解を頂くようにお話をさせていただいています。	身体拘束をしないケアについては、入職時に研修を実施し、フロアミーティングでほぼ毎月説明している。スピーチロックについても機会があることに注意を促すが、問題がある時は個別に呼んで指導している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	フロアミーティングを毎月開催、フロアでの困りごとを統一介護について個別に話し合う機会をもっている。会社全体の『虐待防止』の取り組みで研修への参加、伝達講習を行っている。毎年会社代表が主催する研修に参加している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見人がある方はご入居してはませんが、成年後見人制度についてはまだ理解は薄い。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書はご家族様と読み合わせを行い理解を求めている。何でもご質問しやすい環境を整えています。契約についてのトラブルはありませんでした。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご意見箱を設置しています。面会時に要望や不備がないか面と向かってお聞きさせていただいています。ホームページ上でもご意見を寄せられる仕組みとなっております。時代に合わせ管理者と携帯メールでご家族様と情報交換している。	家族の面会は管理者が迎え、要望や意見を丁寧に聴取している。意見箱とホームページには未だ意見が寄せられないが、携帯メールは家族全員と通信可能になっており、送受信とも多く、有効な情報交換のツールとして活用している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	気軽に話ができる環境づくりを行い、個別に意見を聞けるように面談や声を掛けています。代表の電話番号も緊急連絡網に入れ、電話ができる状況になっています。	日々の介護の中で気軽に意見や要望を出しやすいよう雰囲気づくりを心がけ、特に職員の体調については常に留意している。月1回開催の全体会議とフロア会議では、意見が少ない時は指名して意見を求めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個々の条件に合わせ勤務を配慮しています。キャリアパスにて評価、能力や業務の責任で給与を決めています。資格のとり方、職位について周知し向上心につなげています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	入社時に新人研修記録を使い20日間に渡り指導を行なっています。全体の知識・技術も向上している。研修なども積極的に出席できるように勤務調整し、力量や職責で受講する研修を受けるように配慮。社外研修へも参加している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部研修を通じて同業者との交流が出来るようにしている。社内イベントを通じ同業者と交流の機会としている。		

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人様・ご家族様と入居時の面談や、入居から暫くは困っていることなどを伺いに訪室している。ご家族様には面会時にお話を伺っている。出来る限りご本人様やご家族様のご要望に添えるよう勤めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居時の相談や面談の際やご入居前にご家族様と密にお話する時間を作り、疑問や不安が無いようにひとつひとつ解決するように心掛けて接している。はじめての事が多いのでわかりやすく説明、お手伝いできる部分は行なっている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	しっかり情報収集行い、必要なサービスや援助の初期を決定し、援助しながらその人にアセスメントを行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家事・掃除・洗濯などを分担しそれぞれの役割を持ちお互いが支えあう生活を行っている。できなくてもお気持ちを大切にしながら共に生活している関係を満足感に変えることができるように配慮しています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご入居者様の普段の状態や言葉などを面会時に細かく報告し情報を共有している。イベントや外出時の写真などをご家族様・ご本人様を交えて見て頂きたいとお話している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会について、入居時にご家族様が了解であれば、ご友人様の面会も制限していない事をお伝えしています。今まで買い物に行っていた人は職員と共に出掛けご自身の目と手で確かめて買い物をさせていただいています。	家族同伴で外食や墓参り・法事に出かけたり、職員が同行して馴染みのスーパーマーケットへ買い物に出かける利用者がいる。友人の訪問がある利用者が3人いるが、事前に家族の了解があれば、いつでも自由に迎えている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	仲が良い悪いを把握し、問題になる前に関わりを持ち解決している。個別対応と、全体対応にメリハリをつけている。(レクでもやりたくないものがそれぞれある事を理解している)		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	お亡くなりになってしまった方の郵便物がしっかりとご家族様に届くようお送りしている。退去された方の御家族様が『いいところなので』とご紹介してくれるケースもありました。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご入居時にその方を知る事から始め、こまめにご家族様・ご本人様とお話をして個別の対応を行っています。	少人数対応を行うグループホームの特性を生かし、個々の利用者や家族の意向に対応することを心がけている。意向を把握するために、職員全員が利用者とコミュニケーションを取る事で生活歴や現在の状況を把握している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	御家族様や、直前に利用中であった施設から情報収集している。直近の介護認定調査の主治医意見書も参考にしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の健康チェックを行い数字にて健康状態の把握を行っています。その都度お言葉を掛けさせて頂き顔の表情や顔色。温度の確認などを行い変化にいち早く気付くようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	基本は月に1回フロア会議にて細かくモニタリングしています。状態や状況の変化にてご家族様や医療連携先・計画作成者(管理者)と相談し方向性を決めている。	利用者の詳細な状況を記入するケアチェック表を職員全員が記入し把握している。その情報をもとに介護支援専門員と計画作成担当者が介護計画を作成し、フロア会議で職員に提示して情報の共有を図っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	夜勤者から日勤者、日勤者から夜勤者へ申し送りにて情報共有をしています。記録や気付きノートや日誌にその都度気付いた事やどんな状況だったのかを記入して情報共有しています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人様やご家族様よりの情報で、その方のニーズが施設で賄うことのできることを判断し、我々もご家族様の1人として様々なお手伝いを行うようにしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	使える地域資源の理解が乏しい事が原因とあらためて気づいた。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人様がかかりつけの病院・医師で受診を受けられるように支援しています。普段ケアさせて頂き体調面でいつもと違う等小さなことから相談させて頂いている。	利用者は協力病院より月2回の往診を受けている。ほぼ毎日医師の往診があり、体調不良時は随時診察を受けられる。協力病院以外への受診は、情報の共有のため責任のある職員が立ち合いを行っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師の訪問の際、変化を報告し情報共有をしています。緊急時は医療連携の看護師に報告し指示を仰いでいます。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時に現病歴はもちろん既往歴、注意事項を入院先に提供しています。入院時に必要な物品など、こまめに訪れ入院先病院様に迷惑が掛からないように準備・追加をしています。退院時期に関しても早期に施設でできる範囲で受け入れるようにしています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	今までのケースでは、状況変化でご家族様に報告し方針を決定、適時に医療連携先医師と話し合う機会を作り方向性を決めました。いずれも施設では対応困難で病院を選択し入院後お亡くなりになりました。終末期については御家族様が覚悟を持てるように情報提供・見解を説明している。	事業所として看取りを行う方針ではあるが、家族が病院での対応を希望するため実績はまだない。管理者が看護師であり、必要に応じて指示や処置・緊急対応、さらには職員に必要な知識の研修が可能な体制である。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変については命が切迫している場合は救急車優先、他は管理者の指示にて行動を設定し、ルール通りに行動できている。定期的に社内研修を行い知識を身に付けている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災マニュアルを作成、防災委員会を中心に定期的に訓練を行っている。地域での活動は沼津市よりの訓練で報告訓練を行っているが、地域では津波避難訓練に管理者が参加している。	火災・津波・地震・河川からの浸水をリスクとして備蓄や年4回の訓練を実施している。特に浸水では土嚢や水嚢を用意し、実際に使用訓練も行っている。また災害の際は同じ法人内の事業所で助け合う体制をとっている。	必要時は法人内の事業所で助け合う体制が確立されている。体制に沿った訓練を実施し、職員などの動きを実際に検証することで、更なる体制の強化を期待する。

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	診察や肌の露出させる援助を行う際はしっかりと戸を閉めたり、パーテーションで見えないように配慮している。ご入居者様の呼び方も全て『さん』づけに統一、言葉遣いも十分に配慮している。できていなければ個別に指導している。	職員が利用者に接する際は、慣れによる言葉の乱れがないよう気を配り、必要に応じて管理者が個別に指導を行っている。往診の際は居室に医師が訪問し、医療的な情報が他の利用者などに洩れないように気を配っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	希望や不満のお話は表に出しやすい人間関係を作っています。可能なことは早急に対処し、不可能な事には『何故』をしっかりと説明し納得して頂けるようにお話しています。事故決定ができるように『待つ』事もしています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1日の流れや身体を動かす事の基本ベースはありますが、業務的ペースにならなように心掛けています。できる限りの制限を持たせないようにしています。好きなこと興味のあることに着目して援助している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	洋服やズボンなどの衣類を何枚か出しその中から選んで頂いて、その衣装について感想を言っています。目標はいつ外出しても恥ずかしくならないようにを目指していますが、ご入居者様のペースに合わせる事もあり乱れる事もあります。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	季節ごとのイベントや誕生日などの特別な日に見合った食事ができるように配慮しています。外食や皆で作ったものなど様々に楽しんで頂いております。準備や片付けも協力してその方のできる事を分担して役割を持たせています。	クリスマスや丑の日など、四季に応じた行事食を調理し提供している。またそば打ちやおせち料理を利用者と共に作り、楽しみながら達成感を得られるイベントとなっている。さらに誕生日には個別で外食に出かけるなど、特別なイベントとなるように工夫している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	1人1人の摂取量を把握して、その方にあった食事量を提供、水分量は1日1500ml以上を目標としています。夏場の外出・入浴後にはポカリスエットを提供し失われた水分とミネラルの補充をしています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	定期的な歯科医師の往診、歯科衛生士の口腔ケアを行っています。毎食後に全員に口腔ケアをして頂き確認をし職員によって仕上げて行っています。夜間は入れ歯をしている方は洗浄剤に付けています。定期的に口腔ケアの研修を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	自立している方に関しては排泄の内容を把握させていただき、トイレに行った際に排尿・排便の有無を聴取しています。失敗のある方は個別にリハビリパンツ・パット・オムツなどで対応しています。声掛け排泄誘導もしています。	トイレは各ユニットで3か所ある。うち2つは車いすトイレとなっており、前傾姿勢を補助する前受タイプの手すりの設置がある。排泄パターンを把握し排泄の声掛けを適時行い、できる限りトイレでの排泄を目指している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘解消の体操を取り入れています。朝に牛乳を飲むなども行っています。便秘傾向の方に関しては水分量のチェックを行い、便の性状や訴えを把握し必要時に医療連携医師に相談し下剤や緩下剤の処方依頼をしています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴は週に2回入浴できるように週間予定としてプランしています。どうしても入りたくない方に関しては時間を変え、人を変え無理強いしないように対処、入浴を見送る際は清拭に切り替えたりして清潔を維持しています。	1日の入浴人数は3～4名程度とし、週2回の入浴を計画的に実施している。また気持ちよく入浴できるよう、拒否がある時は無理強いせず、介護的な対応により促している。入浴剤や菖蒲湯、柚子湯など、季節に応じた入浴となるよう工夫している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その方に合わせ入眠介助を行っています。歩行不安定も呼吸抑制も考えられる為、出来る限り入眠導入剤を使用しない自然な入眠をして頂いています。入眠を無理に促さず自由に過ごしていただいています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬マニュアルに沿って服薬チェックリストを用い間違いのない与薬をしています。お薬のセットは薬局または管理者が行い情報共有もリアルタイムで行っています。用法・容量に関しては職員の末端までは把握できていない。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	その方の今まで楽しみにしていたことを把握し、継続できるように整えること。楽しみを拡大できるようにしている。1日の中の家事などを分担しそれぞれの役割を持たせている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	体調や天候を参考に外出を計画している。長距離の歩行が可能の方、近所までの方などお体の耐久性に応じ、日々散歩を実施している。遠距離の外出は施設車両にて行っている。(1月～3月は感染症対策で自粛している)ご家族様との外出も制限なく行われています。	併設の小規模多機能事業所の車を利用し、遠距離の外出を年6～7回程度行っている。夜間から出発する外出もある。「諦めたらそこで終わりである。」との考えから、職員が移動を工夫することで、車いすの多いフロアにおいて全ての利用者が参加する外出を実現させている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	会社の方針でお金の所持に関しては基本的にはお持ち頂かない様にしています。現在1名も現金をお持ちの方はいません。日常品の買い物と一緒に選り購入に行ったり、必要なものを職員が購入してきています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご希望に応じてTELやお手紙を書いたりする事ができるようになっています。その旨をご本人様やご家族様にお伝えしています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	毎朝と夜勤時に掃除を行っています。転倒防止の観点から危険物を除去しています。音楽もみなさんのその時その時のご希望によって音楽を用意してリラックスできる空間づくりをしています。定期的に危険予知訓練を行い、日々居心地の良い空間を提供できるように心掛けています。	居間は照明が多く配置され明るい。また音楽を流し、無音になる時間がないように配慮されている。音楽は利用者の希望に応えられる様に、様々なジャンルのCDを用意している。感染症対策として漂白剤を使用し、週2回程度の消毒を実施している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	掲示板にイベントや外出の写真とコメントを掲示して皆さんに思い出して頂ける様に配慮しています。ご入居者様の中でも気の合う合わないがあり共有部での席順を配慮。机によって趣味の内容が違っているようにしている。季節ごとの装飾もしています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人様やご家族様と相談し、使い慣れた馴染みの物を置いて頂けるようお願いしています。足元の障害や防災に問題がなければどのようなものでも受け入れています。携帯電話をお持ちの方も1名おります。	居室は温水の出る洗面所と作り付けのタンス、介護用ベッドの用意がある。仏壇やぬいぐるみなど、利用者の思い入れのある物を自由に配置できるが、安全確保のため動線上はきれいに片付けられている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	お部屋が解らなくなる方には目線にお名前が見えるように部屋の前に表示させていたでています。危険物(足元・洗剤・刃物・紐類)が目につくよう、手が届かないように、刃物は数もチェックし安全な環境を提供しています。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2291100184		
法人名	有限会社 在宅支援センターふれあい		
事業所名	グループホームふれあい島郷	ユニット名	3Fフロア
所在地	静岡県沼津市下香貫清水2135		
自己評価作成日	平成30年3月2日	評価結果市町村受理日	平成30年4月16日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/22/index.php?action=kouhyou_detail_2017_022_kani=true&lgvosyoCd=2291100184-00&PrefCd=22&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	セリオコーポレーション有限会社 福祉第三者評価 調査事業部		
所在地	静岡県静岡市清水区迎山町4-1		
訪問調査日	平成30年3月16日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

介護度が高く、介護必要度がおい方が多くご入居している為、主に身体ケアが多い。認知症が進んでいても分け隔てなくその方の必要介護が行われている。季節感を雰囲気を感じられる様に食堂フロア装飾を施し目で楽しみ、感じて頂いている。さらに掲示物の作成もご入居者様のお手を借り、『皆で作る』事をコンセプトで作る楽しみをプラスしている。
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

※複数ユニットの外部評価結果は1ユニット目の評価票に記入されています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	会社の理念を毎朝の朝礼時に斉唱している。全体会議などで職員全体で目標や理念について話し合っている。	※複数ユニットの外部評価結果は1ユニット目の評価票に記入されています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の自治体などと交流を持ちボランティアやイベントを開催している。周辺散策・店舗への買い物へ出掛けている。夏にサマーフェスタと題し毎年200人近くの方が施設を訪れている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	事業所主催のお祭りを開き、模擬店・大道芸などを楽しみながら地域の方と交流しました。その中で介護相談ブースを設けケアマネが対応。地元自治会のお手伝いをさせていただき、地元の納涼祭にも参加させていただきました。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	前回と同様にご意見を頂くために、ご入居者様家族様、地域包括、地元の自治会長様をお誘いし会議を行っている。事業所の運営状態や事故の報告をしたりご入居者様の日々のご様子を紹介している。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	大きな事故では行政事故報告を行い状況の説明をしている。沼津市の開催する指導に参加し最新の介護情報を得ている。運営推進会議の報告を行なっている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束はしていません。ご入居時にご家族様へも説明している。フロア出入り口は施錠しています。ご家族様へは安全配慮の為とご理解を頂くようお話をさせていただいています。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	フロアミーティングを毎月開催、フロアでの困りごとを統一介護について個別に話し合う機会をもっている。会社全体の『虐待防止』の取り組みで研修への参加、伝達講習を行っている。毎年会社代表が主催する研修に参加している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見人がある方はご入居してはませんが、成年後見人制度についてはまだ理解は薄い。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書はご家族様と読み合わせを行い理解を求めている。何でもご質問しやすい環境を整えています。契約についてのトラブルはありませんでした。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご意見箱を設置しています。面会時に要望や不備がないか面と向かってお聞きさせていただいています。ホームページ上でもご意見を寄せられる仕組みとなっております。時代に合わせ管理者と携帯メールでご家族様と情報交換している。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	気軽に話ができる環境づくりを行い、個別に意見を聞けるように面談や声を掛けています。代表の電話番号も緊急連絡網に入れ、電話ができる状況になっています。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個々の条件に合わせ勤務を配慮しています。キャリアパスにて評価、能力や業務の責任で給与を決めています。資格のとり方、職位について周知し向上心につなげています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	入社時に新人研修記録を使い20日間に渡り指導を行なっています。全体の知識・技術も向上している。研修なども積極的に出席できるように勤務調整し、力量や職責で受講する研修を受けるように配慮。社外研修へも参加している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部研修を通じて同業者との交流が出来るようにしている。社内イベントを通じ同業者と交流の機会としている。		

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人様・ご家族様と入居時の面談や、入居から暫くは困っていることなどを伺いに訪室している。ご家族様には面会時にお話を伺っている。出来る限りご本人様やご家族様のご要望に添えるよう勤めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居時の相談や面談の際やご入居前にご家族様と密にお話する時間を作り、疑問や不安が無いようにひとつひとつ解決するように心掛けて接している。はじめての事が多いのでわかりやすく説明、お手伝いできる部分は行なっている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	しっかり情報収集行い、必要なサービスや援助の初期をケアマネ(計画作成)が決定し、援助しながらその人にアセスメントを行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家事・掃除・洗濯などを分担しそれぞれの役割を持ちお互いが支えあう生活を行っている。できなくてもお気持ちを大切にしながら共に生活している関係を満足感に変えることができるように配慮しています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご入居者様の普段の状態や言葉などを面会時に細かく報告し情報を共有している。イベントや外出時の写真などをご家族様・ご本人様を交えて見て頂きたくさんお話している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会について、入居時にご家族様が了解であれば、ご友人様の面会も制限していない事をお伝えしています。今まで買い物に行っていた人は職員と共に掛けご自身の目と手で確かめて買い物をしていただいています。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	仲が良い悪いを把握し、問題になる前に関わりを持ち解決している。全体的に介護度が高く食事介助が多いため職員が動きやすい観察しやすい席の配置をしている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	お亡くなりになってしまった方の郵便物がしっかりご家族様に届くようにお送りしている。他施設に転居された方の情報についていつでもお伝え出来るように転居先の管理者様に伝えている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご入居時にその方を知る事から始め、こまめにご家族様・ご本人様とお話をして個別の対応を行っています。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	御家族様や、直前に利用中であった施設から情報収集している。直近の介護認定調査の主治医意見書も参考にしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の健康チェックを行い数字にて健康状態の把握を行っています。その都度お言葉を掛けさせて頂き顔の表情や顔色。温度の確認などを行い変化にいち早く気付くようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	基本は月に1回フロア会議にて細かくモニタリングしています。状態や状況の変化にてご家族様や医療連携先・計画作成者と相談し方向性を決めている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	夜勤者から日勤者、日勤者から夜勤者へ申し送りにて情報共有をしています。記録や気付きノートや日誌にその都度気付いた事やどんな状況だったのかを記入して情報共有しています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人様やご家族様よりの情報で、その方のニーズが施設で賄うことのできることを判断し、我々もご家族様の1人として様々なお手伝いを行うようにしています。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	使える地域資源の理解が乏しい事が原因とあらためて気づいた。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人様がかかりつけの病院・医師で受診を受けられるように支援しています。普段ケアさせて頂き体調面でいつもと違う等小さなことから相談させて頂いている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師の訪問の際、変化を報告し情報共有をしています。緊急時は医療連携の看護師に報告し指示を仰いでいます。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時に現病歴はもちろん既往歴、注意事項を入院先に提供しています。入院時に必要な物品など、こまめに訪れ入院先病院様に迷惑が掛からないように準備・追加をしています。退院時期に関しても早期に施設でできる範囲で受け入れるようにしています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	今までのケースでは、状況変化でご家族様に報告し方針を決定、適時に医療連携先医師と話し合う機会を作り方向性を決めました。いずれも施設では対応困難で病院を選択し入院後お亡くなりになりました。終末期については御家族様が覚悟を持てるように情報提供・見解を説明している。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変については命が切迫している場合は救急車優先、他は管理者の指示にて行動を設定し、ルール通りに行動できている。定期的に社内研修を行い知識を身につけている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災マニュアルを作成、防災委員会を中心に定期的に訓練を行っている。地域での活動は沼津市よりの訓練で報告訓練を行っているが、地域では津波避難訓練に管理者が参加している。		

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	診察や肌の露出させる援助を行う際はしっかりと戸を閉めたり、パーテーションで見えないように配慮している。ご入居者様の呼び方も全て『さん』づけに統一、言葉遣いも十分に配慮している。できていなければ個別に指導している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	希望や不満のお話は表に出しやすい人間関係を作っています。可能なことは早急に対処し、不可能な事には『何故』をしっかりと説明し納得して頂けるようにお話しています。事故決定ができるように『待つ』事もしています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1日の流れや身体を動かす事の基本ペースはありますが、業務的ペースにならなように心掛けています。できる限りの制限を持たせないようにしています。好きなこと興味のあることに着目して援助している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	洋服やズボンなどの衣類を何枚か出しその中から選んで頂いて、その衣装について感想を言っています。目標はいつ外出しても恥ずかしくならないようにを目指していますが、ご入居者様のペースに合わせる事もあり乱れる事もあります。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	季節ごとのイベントや誕生日などの特別な日に見合った食事ができるように配慮しています。外食や皆で作ったものなど様々に楽しんで頂いております。準備や片付けも協力してその方のできる事を分担して役割を持たせています。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	1人1人の摂取量を把握して、その方にあった食事量を提供、水分量は1日1500ml以上を目標としています。夏場の外出・入浴後にはポカリスエットを提供し失われた水分とミネラルの補充をしています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	定期的な歯科医師の往診、歯科衛生士の口腔ケアを行っています。毎食後に全員に口腔ケアをして頂き確認をし職員によって仕上げを行っています。夜間は入れ歯をしている方は洗浄剤に付けています。定期的に口腔ケアの研修を行っています。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	自立している方に関しては排泄の内容を把握させていただく為にトイレに行った際に排尿・排便の有無を聴取しています。失敗のある方は個別にリハビリパンツ・パット・オムツなどで対応しています。声掛け排泄誘導もしています。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘解消の体操を取り入れています。朝に牛乳を飲むなども行っています。便秘傾向の方に関しては水分量のチェックを行い、便の性状や訴えを把握し必要時に医療連携医師に相談し下剤や緩下剤の処方依頼をしています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴は週に2回入浴できるように週間予定としてプランしています。どうしても入りたくない方に関しては時間を変え、人を変え無理強いしないように対処、入浴を見送る際は清拭に切り替えたりして清潔を維持しています。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その方に合わせ入眠介助を行っています。歩行不安定も呼吸抑制も考えられる為、出来る限り入眠導入剤を使用しない自然な入眠をして頂いています。入眠を無理に促さず自由に過ごしていただいています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬マニュアルに沿って服薬チェックリストを用い間違いのない与薬をしています。お薬のセットは薬局または管理者が行い情報共有もリアルタイムで行っています。用法・容量に関しては職員の末端までは把握できていない。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	その方の今まで楽しみにしていたことを把握し、継続できるように整えること。楽しみを拡大できるようにしている。1日の中の家事などを分担しそれぞれの役割を持たせている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	体調や天候を参考に外出を計画している。長距離の歩行が可能の方、近所までの方などお体の耐久性に応じ、日々散歩を実施している。遠距離の外出は施設車両にて行っている。(1月～3月は感染症対策で自粛している)ご家族様との外出も制限なく行われています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	会社の方針でお金の所持に関しては基本的にはお持ち頂かない様にしています。現在1名も現金をお持ちの方はいません。日常品の買い物と一緒に選び購入に行ったり、必要なものを職員が購入してきています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご希望に応じてTELやお手紙を書いたりする事ができるようになっています。その旨をご本人様やご家族様にお伝えしています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	毎朝と夜勤時に掃除を行っています。転倒防止の観点から危険物を除去しています。音楽もみなさんのその時その時のご希望によって音楽を用意してリラックスできる空間づくりをしています。定期的に危険予知訓練を行い、日々居心地の良い空間を提供できるように心掛けています。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	掲示板にイベントや外出の写真とコメントを掲示して皆さんに思い出して頂ける様に配慮しています。ご入居者様の中でも気の合う合わないがあり共有部での席順を配慮。机によって趣味の内容が違っている。季節ごとの装飾もしています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人様やご家族様と相談し、使い慣れた馴染みの物を置いて頂けるようにお願いしています。足元の障害や防災に問題がなければどのようなものでも受け入れています。携帯電話をお持ちの方も1名おります。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	お部屋が解らなくなる方には目線にお名前が見えるように部屋の前に表示させていたでています。危険物(足元・洗剤・刃物・紐類)が目に触れぬよう、手が届かないように、刃物は数もチェックし安全な環境を提供しています。		